

# キプロス通信 Vol.10

## ～パラリンピック代表大活躍！～

下野市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるキプロス共和国のホストタウンです。

9月5日に閉幕した東京2020パラリンピック競技大会では、キプロス代表の活躍が光りました。キプロスのオリンピック・パラリンピック通して初の金メダリストであるカロリナ・ペレンドリトゥ選手は、女子100m平泳ぎ（SB11）で金メダル、50m自由形（S11）で銅メダルを獲得しました。

初出場のマリア・マルコウ選手は、女子パワーリフティング67kgで7位に入賞しました。

本市で事前キャンプを行う予定だったアントニス・アレスティ選手（北京パラリンピック銀メダリスト）は、男子400m（T47）に出場。決勝進出は叶いみせんでしたが、今期ベストタイムの走りで、輝かしいキャリアに幕を閉じました。

コロナ禍で事前調整が難しい中での大会となりましたが、ベストを尽くした3選手、本当にお疲れ様でした！



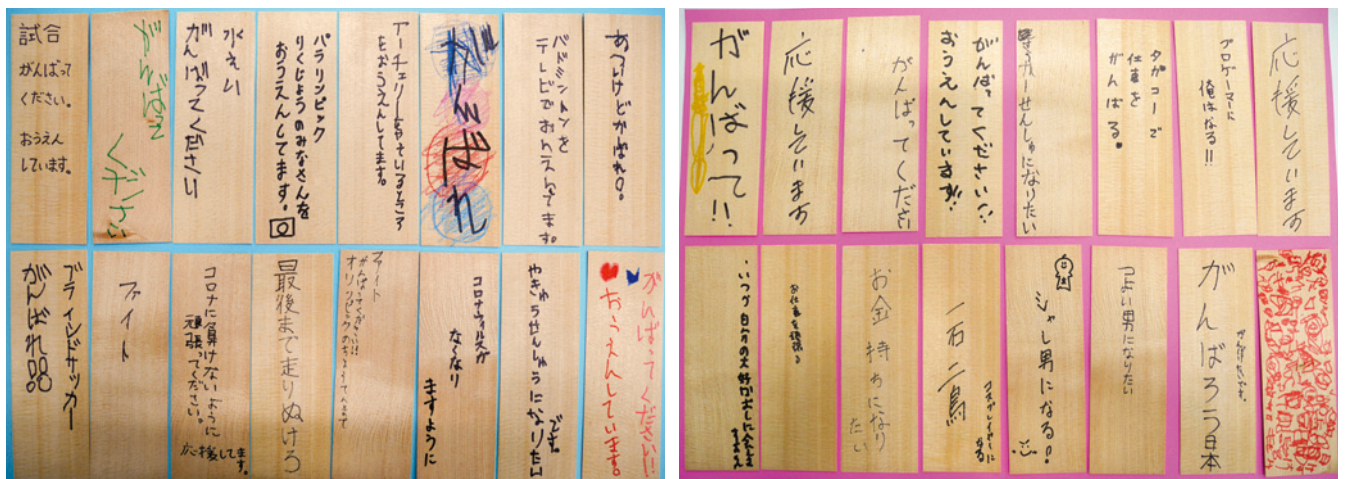
アントニス選手は閉会式で旗手を務めました



カロリナ選手は13年ぶり3つ目の金メダルを獲得

写真提供：キプロスパラリンピック委員会

## 国分寺特別支援学校の子どもたちからのメッセージ



パラリンピックの開催にあたり、国分寺特別支援学校の子どもたちに、パラリンピック選手への応援メッセージや願いごとを、思い思いに木札に書いていただきました。これらの木札は、パラリンピックの聖火を「採火」する聖火フェスティバルで火種として使用する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、残念ながら中止となりました。

8月16日、パラリンピックを応援する気持ちを込めて、木札に火をともしました。「パラリンピック聖火はみんなのもの」という理念のとおり、子どもたちの熱い思いは、きっと選手の皆さんに届いたことでしょう。

